

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 四国財務局長

【提出日】 平成29年6月21日

【事業年度】 第46期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

【会社名】 兼松エンジニアリング株式会社

【英訳名】 KANEMATSU ENGINEERING CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佃 維 男

【本店の所在の場所】 高知県高知市布師田3981番地7

【電話番号】 088(845)5511(代表)

【事務連絡者氏名】 管理部門執行役員 中 野 守 康

【最寄りの連絡場所】 高知県高知市布師田3981番地7

【電話番号】 088(845)5511(代表)

【事務連絡者氏名】 管理部門執行役員 中 野 守 康

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
決算年月	平成25年 3月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月
売上高 (千円)	7,302,455	7,874,221	8,680,214	9,438,788	10,331,385
経常利益 (千円)	488,550	590,671	740,288	827,842	866,736
当期純利益 (千円)	294,364	349,447	451,310	539,979	616,654
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	313,700	313,700	313,700	313,700	313,700
発行済株式総数 (株)	4,280,000	5,564,000	5,564,000	5,564,000	5,564,000
純資産額 (千円)	3,027,197	3,287,979	3,643,221	4,027,077	4,468,547
総資産額 (千円)	5,813,303	6,780,540	7,363,066	7,804,749	8,503,076
1株当たり純資産額 (円)	544.57	591.49	655.39	724.45	803.87
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	20.00 ()	18.00 ()	27.00 ()	33.00 ()	38.00 ()
1株当たり 当期純利益金額 (円)	52.95	62.86	81.19	97.14	110.93
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	52.1	48.5	49.5	51.6	52.6
自己資本利益率 (%)	10.1	11.1	13.0	14.1	14.5
株価収益率 (倍)	9.80	8.62	11.66	9.52	10.62
配当性向 (%)	29.1	28.6	33.3	34.0	34.3
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	75,684	712,396	788,669	186,140	919,278
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	100,256	399,554	549,675	99,729	412,410
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	126,105	90,789	97,695	152,223	180,857
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	619,762	841,815	983,113	917,300	1,243,310
従業員数 (名)	159	171	180	193	201

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 2 当社は、連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度等に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため、記載しておりません。
- 4 平成25年4月1日付で普通株式1株につき普通株式1.3株の割合で株式分割を行っております。第41期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。
- 5 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 6 平成25年3月31日を基準日とし、同年4月1日付をもって1株を1.3株に株式分割しており、平成25年3月31日の株価は、権利落ち後の株価になっております。このため、第42期の株価収益率については、権利落ち後の株価に分割割合を乗じて算出してしております。また、平成25年4月1日付で1単元の株式数を1,000株から100株に変更しております。
- 7 第42期の1株当たり配当額の内訳は、普通配当12円、特別配当8円であります。
- 8 第43期の1株当たり配当額の内訳は、普通配当12円、特別配当6円であります。
- 9 第44期の1株当たり配当額の内訳は、普通配当12円、特別配当15円であります。
- 10 第45期の1株当たり配当額の内訳は、普通配当12円、特別配当21円であります。
- 11 第46期の1株当たり配当額の内訳は、普通配当12円、特別配当26円であります。

2 【沿革】

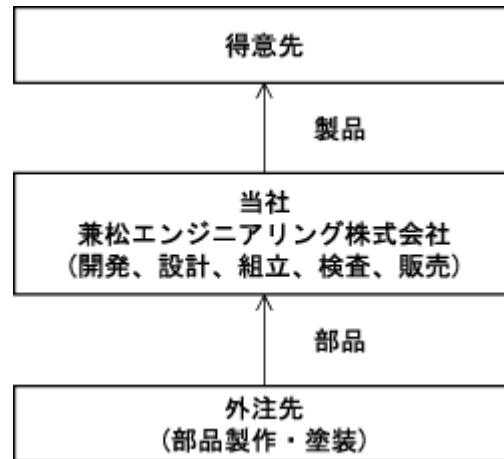
昭和46年9月	兼松エンジニアリング株式会社を高知県高知市高須1216番地に設立し、環境整備機器の製造販売を開始
昭和49年6月	本社を高知県南国市岡豊町中島356番地に移転
昭和49年10月	強力吸引作業車を開発し、車体への架装を開始
昭和51年4月	大阪府高槻市に大阪事務所を開設
昭和52年9月	東京都中央区に東京営業所を開設
昭和52年12月	本社を高知県南国市岡豊町中島326番地10に移転
昭和57年4月	福岡市中央区に福岡営業所を開設
昭和61年10月	高圧洗浄車を開発し、販売を開始
昭和62年3月	本社・工場を高知県高知市布師田3981番地7に移転
昭和63年4月	名古屋市西区に名古屋出張所を開設
平成元年9月	仙台市太白区に仙台出張所を開設
平成元年11月	北海道千歳市に千歳出張所を開設
平成3年6月	高知県南国市のテクノ高知工業団地内に明見工場を新設
平成4年3月	広島県佐伯郡大野町に広島出張所を開設
平成8年7月	各営業所及び出張所を、それぞれ支店及び営業所に改称
平成9年5月	関係会社株式会社高知溶工を完全子会社化
平成9年8月	高知県高知市に四国支店を開設
平成11年4月	高知県南国市のテクノ高知工業団地内に技術センターを開設
平成13年4月	広島営業所と四国支店を統合し、中四国支店を開設
平成14年3月	株式会社大阪証券取引所市場第二部に上場
平成14年4月	本社に技術研究室を開設
平成14年9月	ビルメンテナンス用清掃車を開発し、販売を開始
平成14年10月	株式会社高知溶工を吸収合併
平成16年10月	本社に西工場を取得
平成19年9月	高知県南国市に滝本ヤードを取得
平成19年11月	本社西工場内に塗装工場を新設
平成20年4月	仙台営業所と千歳営業所を併合し、仙台市太白区に東北・北海道支店を開設
平成21年3月	明見工場に駐車場を取得
平成22年11月	重慶耐德山花特種車有限責任公司(中国)と強力吸引作業車・高圧洗浄車の「技術移転に関する契約書」を締結
平成23年3月	マイクロ波抽出装置を開発し、販売を開始
平成23年12月	東北・北海道支店の千歳営業所を移転し、札幌市厚別区に札幌営業所を開設
平成25年1月	マイクロ波抽出装置が「第10回新機械振興賞 一般財団法人機械振興協会会長賞」を受賞
平成25年3月	本社工場の一部をマイクロ波抽出装置を中心とした研究棟として改装
平成25年7月	株式市場統合に伴い、東京証券取引所市場第二部に指定替え
平成25年10月	除染作業向け路面清掃専用車としては国内初となるリムーバー3000を開発し、販売を開始
平成26年3月	名古屋支店を名古屋市北区に移転
平成28年3月	高知県南国市の「滝本ヤード」に完成車両保管倉庫を新設し、「滝本ベース」に改称
平成28年4月	製品の累計出荷台数が1万台突破
平成29年2月	マイクロ波を用いたバイオマス再資源化装置を開発し、販売を開始
平成29年3月	年間売上高100億円を達成

3 【事業の内容】

当社は、主に強力吸引作業車、高圧洗浄車、汚泥脱水機・減容機等の環境整備機器の製造販売を行っております。強力吸引作業車は、道路での側溝清掃、土木建築現場での汚泥吸引、工場での乾粉等各種産業廃棄物の吸引回収に利用されております。高圧洗浄車は、下水道管、側溝、タンク、熱交換器等の洗浄作業に利用されております。また、汚泥脱水機・減容機は、中間処理場での汚泥の脱水、減容化に利用されております。

事業の系統図及び概要は、次のとおりであります。

なお、当社は環境整備機器関連事業並びにこれらの付帯業務の単一事業であるため、セグメントごとに記載しておりません。



当社は、環境整備機器の開発、設計、組立、検査、販売を行っております。なお、製品の部品製作については、外注先に委託し、その委託管理は当社の調達部が担当しております。

特定の外注先には、高圧洗浄車の組立及び製品の塗装を委託しております。高圧洗浄車の組立先及び製品の塗装先2社は、当社の所有する工場にて作業を行っております。

製品のアフターサービスは、全国に配置した支店・営業所の技術サービス員と当社指定サービス工場が行い、本社技術サービス員がその指導・調整・管理に当たり、統括管理は品質保証部が行っております。なお、当社と指定サービス工場は、サービス業務の円滑な運営及び当社製品の販売に関する情報交換等を図る目的で「K & E 共栄会」を組織しております。

輸出向け販売は、O D Aによるものが主であり、特定のメーカー及び専門商社にて行っております。また、当社の行う輸出販売は海外課が担当し、主に現地の商社・架装メーカーを経由しております。

4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成29年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
201	40.3	12.9	7,447

- (注) 1 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 2 当社は、環境整備機器関連事業並びにこれらの付帯業務の単一事業であるため、セグメントごとに記載しておりません。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されていませんが、労使関係は円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度における我が国経済は、年度前半は円高の影響等により企業収益が圧迫され、個人消費の回復力にも弱さがみられたものの、後半には政府の経済政策やトランプ政権誕生後の円安効果もあり全般的に持ち直しに転じました。年度全般では、雇用・所得環境が改善し、総じて緩やかな回復基調が継続しました。

当社は期初受注残から引き続き、活発な生産活動を維持しました。首都圏を中心とするオリンピック事業向け需要に加え、全国的なインフラ整備/長寿命化等に伴う幅広い需要に支えられ、主力製品である強力吸引作業車・高圧洗浄車共に過去最高の生産台数となりました。特に高圧洗浄車は、下水管更生需要等に伴い、前年比大幅な伸びとなりました。

その他、造船所向けに複数台の定置型吸引機や、バイオマス再資源化装置の初売上也計上いたしました。

当社の特徴である、お客様のニーズに応じた製品を受注生産する一方で、短期間での納車を希望されるお客様に因應するため、先行製作車の生産も積極的に行いました。

この結果、当事業年度は第40期以降7期連続で増収・増益の結果となり、株式上場以来最高の売上高・利益を更新することができました。

業績につきましては、前事業年度に比べ受注高は952百万円増の10,585百万円(前期比9.9%増)、売上高は892百万円増の10,331百万円(前期比9.5%増)となりました。収益面につきましては、営業利益は38百万円増の844百万円(前期比4.7%増)、経常利益は38百万円増の866百万円(前期比4.7%増)、当期純利益は76百万円増の616百万円(前期比14.2%増)を計上することとなりました。

当社は、環境整備機器関連事業並びにこれらの付帯業務の単一事業であるため、セグメントごとに記載しておりません。なお、製品の品目別の業績については、次のとおりであります。

(ア)強力吸引作業車

前事業年度に引き続き、インフラ整備事業及び工場関係向けの需要、またレンタル向けの需要もあり、受注高及び受注残高は大幅に増加しております。

業績は前事業年度に比べ受注高は1,007百万円増の7,279百万円(前期比16.1%増)、売上高は215百万円増の6,795百万円(前期比3.3%増)、受注残高は484百万円増の3,552百万円(前期比15.8%増)となりました。

(イ)高圧洗浄車

前事業年度に引き続き、下水道関係のインフラ整備事業の需要があり、売上高は大幅に増加しております。

業績は前事業年度に比べ受注高は69百万円増の1,551百万円(前期比4.7%増)、売上高は556百万円増の1,715百万円(前期比48.1%増)、受注残高は163百万円減の604百万円(前期比21.3%減)となりました。

(ウ)粉粒体吸引・圧送車

前事業年度は4台、当事業年度は6台の売上となりました。

業績は前事業年度に比べ受注高は252百万円減の41百万円(前期比85.8%減)、売上高は72百万円増の218百万円(前期比50.1%増)、受注残高は176百万円減の42百万円(前期比80.8%減)となりました。

(エ)部品売上

部品は堅調に販売されており、受注高・売上高ともに前事業年度に比べ19百万円増の829百万円(前期比2.4%増)となりました。

(オ)その他

その他は、上記に属さない製品、中古車の販売及び修理改造等であります。当事業年度は、官公庁向けの「リサイクルコンピ(水循環式排水管清掃車)」、農産バイオマスからの有用成分抽出と乾燥機能を有したバイオマス再資源化装置、造船所向けの「パキュームコンベヤ(定置型吸引機)」等の特殊製品の売上を計上しております。

業績は前事業年度に比べ受注高は109百万円増の882百万円(前期比14.1%増)、売上高は28百万円増の773百万円(前期比3.8%増)、受注残高は109百万円増の291百万円(前期比60.3%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物は、前事業年度に比べ326百万円増加し、1,243百万円(前期比35.5%増)となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において営業活動の結果得られた資金は、前事業年度に比べ733百万円増加し、919百万円(前期比393.9%増)となりました。これは主に、売上債権の増加283百万円及び法人税等の支払額286百万円等はありませんが、税引前当期純利益の計上881百万円及び仕入債務の増加251百万円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において投資活動の結果使用した資金は、前事業年度に比べ312百万円増加し、412百万円(前期比313.5%増)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出205百万円及び定期預金の純増加額200百万円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において財務活動の結果使用した資金は、前事業年度に比べ28百万円増加し、180百万円(前期比18.8%増)となりました。これは配当金の支払い180百万円によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

当社は、環境整備機器関連事業並びにこれらの付帯業務の単一事業であるため、セグメントごとに記載しておりません。

当事業年度における生産実績、受注実績及び販売実績を製品の品目ごとに示すと、次のとおりであります。

(1) 生産実績

品目	生産高(千円)	前年同期比(%)
強力吸引作業車	6,767,530	+ 3.3
高压洗浄車	1,615,987	+ 24.0
粉粒体吸引・圧送車	221,820	+ 33.6
部品売上	829,481	+ 2.4
その他	768,605	+ 7.1
合計	10,203,426	+ 6.8

- (注) 1 生産高は、販売価格によるとともに、消費税等は含まれておりません。
 2 その他は、上記品目に属さない製品、デモ車の生産等が主なものであります。

(2) 受注実績

品目	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
強力吸引作業車	7,279,770	+ 16.1	3,552,089	+ 15.8
高压洗浄車	1,551,786	+ 4.7	604,575	21.3
粉粒体吸引・圧送車	41,896	85.8	42,000	80.8
部品売上	829,481	+ 2.4		
その他	882,796	+ 14.1	291,610	+ 60.3
合計	10,585,731	+ 9.9	4,490,275	+ 6.0

- (注) 1 受注高及び受注残高は、販売価格によるとともに、消費税等は含まれておりません。
 2 その他は、上記品目に属さない製品、デモ車・中古車及び修理改造等の受注が主なものであります。

(3) 販売実績

品目	販売高(千円)	前年同期比(%)
強力吸引作業車	6,795,250	+ 3.3
高压洗浄車	1,715,431	+ 48.1
粉粒体吸引・圧送車	218,096	+ 50.1
部品売上	829,481	+ 2.4
その他	773,126	+ 3.8
合計	10,331,385	+ 9.5

- (注) 1 販売高には、消費税等は含まれておりません。
 2 その他は、上記品目に属さない製品、デモ車・中古車の販売及び修理改造等が主なものであります。
 3 主な輸出先及び輸出高並びにその割合等は、輸出高が総販売実績の10%未満であるため、記載を省略しております。
 4 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、いずれも総販売実績の10%未満であるため、記載を省略しております。

3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1)基本方針

当社の経営理念は、「自社製品の公共性を自覚し、技術を通じ、社会の繁栄に奉仕します。」、「社会のニーズに応ずるため、技術の練磨と研究開発に努力します。」、「お互ひに切磋琢磨し、人間性の向上につとめ、常に前進を目指し、いつもなにかを考えます。」の3つとしております。また、エンジニアリング、技術主体の企業でありたいという思いから「技術の兼松」をスローガンに、技術中心の会社運営を行っております。

(2)目標とする経営指標

当社は事業の発展、株主に対する安定配当の継続等を重視した経営を目指しております。そのため、売上高経常利益率及び自己資本当期純利益率(ROE)の向上と配当性向35%を目標として努めてまいります。

(3)中長期的な会社の経営戦略

当社は創業以来、環境整備機器、特に産業廃棄物処理機器の開発・設計・製造・販売を行ってまいりましたが、企業を取り巻く環境は常に大きく変化しております。

当社を取り巻く業界や市場の動向は、社会インフラ整備という安定的な需要はあるものの、国内需要が中心であります。また、強力吸引作業車・高圧洗浄車は国内で既に高いシェアを占めており、今後の販売に大きな伸びが期待できないため、製品と市場の幅を更に拡げることが不可欠であるとともに、海外市場に注力する必要があることも認識しております。

(4)会社の対処すべき課題

平成29年3月期から平成31年3月期までの3年間にわたる中期経営計画では、景気に左右されず安定的な収益を確保できる企業体質に進化させることに取り組んでおります。

翌事業年度では、中期経営計画に基づき、以下の課題に取り組んでまいります。

[顧客信頼度強化]

顧客信頼度強化こそが当社の更なる成長の根幹を形成する。品質向上、顧客ニーズにあったサービスの提供、サービスの進化に徹底的なこだわりを持つことで、K & E ブランドを確固たるものとする。

[人材の成長]

人材の成長こそが企業価値向上/顧客満足につながる。これからのK & Eを担う人材の成長を図り、またそのための教育環境を充実させる。

[新市場開拓]

今後の更なる成長のためには、新たな市場開拓が不可欠である。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 当社がとっている特有の生産体制

当社は、製品の生産に当たり受注生産を原則としております。従いまして、見込・大量生産品との競合では納期・価格面で不利になることがあります。また、原材料の大量発注ができないため、値上がり等への対応が困難であります。

(2) 当社がとっている特有の仕入形態

当社製品の短納期対応を図るため、シャーシについては、販売先から注文書入手する(受注)前に、当社の需要予測に基づき先行手配している車種があります。このシャーシが受注に至らず未使用となった場合には、長期在庫となる可能性があります。

(3) 特定の仕入先からの仕入の集中

当社製品、強力吸引作業車に使用している吸引用ポンプは当社独自の仕様のポンプとするため、その大部分を特定のメーカーに発注しております。

(4) 特定の部品の供給体制

シャーシや主要部品等の供給元企業が、災害等の事由により当社の必要とする数量の部品等を予定通り供給できない場合、生産遅延、販売機会損失等が発生し、当社の業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、災害以外にも、供給者側のシャーシモデル変更等による一時的な供給体制の崩れが、前記同様の結果を惹起する可能性があります。

(5) 外注先の事業状況

当社では、製品の部品製作を高知県内の外注先に委託しております。しかし外注先では従業員の高齢化、若者の就業減少が進んでおり、事業の継続に懸念を感じる所も現れております。

また、品質向上のための設備投資等も十分に進まず、県外発注を重視する生産体制への移行も考慮する必要があります。

(6) 自然災害のリスク

高知県では近い将来、土佐湾沖にて発生すると言われる南海地震が懸念されております。BCP(事業継続計画)の策定・運用を通じて、被害の低減等の方策を検討してまいりますが、実際に発生した場合には、生産設備の被害による販売への影響、修復のための多額の損失が生ずる可能性があります。

(7) 海外取引

当社での海外向け販売は、ODAによるものが主であります。直接取引の引き合いも増加しつつあります。為替の変動、外国企業への与信、製品の模倣(知的所有権の侵害)等海外取引でのリスクが大きくなります。

(8) 中国市場において、製品や技術が模倣されるリスク

中国市場における活動展開の過程で、「製品の模倣品出現」や「製品の使用技術が模倣される」リスクがあります。そのような権利侵害の事態に至った場合には、技術移転先である重慶耐德山花特種車有限責任公司(中国)と協力し、必要な防御手段を講じてまいります。

5 【経営上の重要な契約等】

技術移転契約

契約締結先名	国籍	契約内容	契約締結日	契約期間	対価
重慶耐德山花特種車有限責任公司	中国	強力吸引作業車及び高圧洗浄車の製造販売権	平成22年11月25日	平成22年11月25日から平成31年11月24日まで(注)	一時金及びランニング・ロイヤルティ

(注) 契約期間を平成28年11月25日から3年間延長しております。

6 【研究開発活動】

当社における研究開発活動は、「社会のニーズに応ずるため、技術の錬磨と研究開発に努力します。」という当社の経営理念に基づき、環境整備機器業界に関する情報を幅広く収集・分析し、顧客ニーズに応じた製品の研究開発を行うことを基本方針としております。

当事業年度における研究開発費の総額は82百万円であり、主な目的、課題、成果及び費用は、次のとおりであります。なお、当社は環境整備機器関連事業並びにこれらの付帯業務の単一事業であるため、セグメントごとに記載しておりません。

(1) マイクロ波抽出装置の研究開発

前事業年度と同様に、マイクロ波を用いた抽出装置は、バイオマスから有用成分の抽出を行い、抽出データを装置の制御プログラムに組み込むことで、装置の抽出対象物の多様化を進めることができました。

また、当事業年度は、前事業年度より開発を進めておりました農産バイオマスからの有用成分抽出と乾燥機能を有した連続処理式マイクロ波抽出装置の実機開発を行い、目標とするランニングコストと農産バイオマスの多量処理を達成し、製品化いたしました。

本製品は、高知県内の柚子加工業者へ納入し、搾汁残渣である柚子皮から精油と芳香蒸留水を抽出する装置として稼働しております。また、高知県と共同で進めておりました乾燥した抽出残渣の2次利用は、製品の納入後、畜産農家による配合飼料化の実証試験を実施しております。

翌事業年度も継続して、装置の多機能化・高性能化の研究開発を進めてまいります。

なお、当事業年度に係る研究開発費は、57百万円であります。

(2) サイクロン高性能化の研究

強力吸引作業車における粉体の吸引作業において、粉体は強力吸引作業車に搭載されているサイクロンとフィルターで集塵されますが、フィルターの目詰まりによる吸引性能の低下や、フィルター清掃に時間を要する等の問題があり、フィルターの上流側に設けられているサイクロンでの粉体の集塵効率の向上が求められています。

当事業年度は、前事業年度において完成しました高性能サイクロン及び小型化したフィルターを、吸引風量40 m³/minクラスの強力吸引作業車へ搭載、製品化いたしました。

さらに、吸引風量の多い吸引風量80 m³/minクラスの強力吸引作業車に搭載されているサイクロンの高性能化の研究開発に取り組んでおります。

翌事業年度も継続して、サイクロン高性能化の研究開発を進め、高性能サイクロンの各車種への搭載を進めてまいります。

なお、当事業年度に係る研究開発費は、24百万円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 財政状態の分析

総資産は、前事業年度末に比べ698百万円増加し8,503百万円となりました。これは主に、棚卸資産の減少88百万円等はありませんが、現金及び預金の増加523百万円及び売上債権の増加284百万円等によるものであります。

負債は、前事業年度末に比べ256百万円増加し4,034百万円となりました。これは主に、未払金の減少166百万円はありますが、仕入債務の増加224百万円、前受金の増加91百万円及び引当金の増加84百万円等によるものであります。

純資産は、前事業年度末に比べ441百万円増加し4,468百万円となりました。これは主に、剰余金の配当183百万円はありますが、当期純利益616百万円等を計上できたことによるものであります。

(2) 経営成績の分析

(売上高)

当事業年度における売上高は、10,331百万円(前期比9.5%増)となりました。

品目別では強力吸引作業車の売上高が前事業年度に比べ215百万円増の6,795百万円、高圧洗浄車の売上高が前事業年度に比べ556百万円増の1,715百万円となりました。これは主に、オリンピック事業向け・下水管更生需要等によるものであります。

(売上総利益)

当事業年度の売上総利益は、2,580百万円(前期比9.2%増)となりました。

売上高の増加により、売上総利益も増加しております。

(販売費及び一般管理費)

当事業年度における販売費及び一般管理費は、1,735百万円(前期比11.5%増)となりました。

これは主に、人件費等の増加によるものであります。

(営業利益)

当事業年度における営業利益は、844百万円(前期比4.7%増)となりました。

売上高の増加により、営業利益も増加しております。

(経常利益)

当事業年度における経常利益は、866百万円(前期比4.7%増)となりました。

営業外収益として22百万円を計上しております。これは主に、受取賃貸料によるものであります。

(当期純利益)

税引前当期純利益は881百万円(前期比6.5%増)となり、税効果会計適用後の法人税等負担額は264百万円(前期比7.8%減)となりました。この結果、当事業年度における当期純利益は616百万円(前期比14.2%増)となりました。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因

産業廃棄物に関する法規制の動向

既存製品の販売、新製品の開発方針に大きな影響を及ぼします。

原材料・資材の価格変動

原材料・資材の大幅な価格変動は、損益に大きな影響を及ぼします。

ディーゼル車の排出ガス規制

順次強化されていく全国的な排出ガス規制では、買替需要が期待されます。

東南アジア諸国の環境施策とODA

各国の環境への関心の高まりとともに、環境整備機器への関心が高まればビジネスチャンスとなります。同時に、日本国のODAによる機器の供給が多くなれば同様であります。

(4) 戦略的現状と見通し

国内市場で大きなシェアを占めている、強力吸引作業車・高圧洗浄車は、高機能化・エコ化・低騒音化・新機種の投入等により、シェアの確保を行ってまいります。当事業年度においては、低騒音化に対応した新機種の投入を行いました。翌事業年度以降、デモ車を利用した販促活動を通じて本格的な拡販に努めてまいります。

また、新分野としてマイクロ波抽出装置を利用した「バイオマス再資源化装置」の本格的な拡販に努めてまいります。

マイクロ波抽出装置では、高機能化評価実験を経て、バイオマス全般分野等様々な用途に向けての市場開拓を本格化させてまいります。

一方海外市場においては、重慶耐德山花特種車有限責任公司(中国)との強力吸引作業車・高圧洗浄車の技術移転を通じ、中国における新市場の開拓を進めてまいります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの状況につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」を参照下さい。

当社の主な資金需要は、生産活動に必要な運転資金、販売費及び一般管理費等の営業活動費であり、これらについては現在手許資金で賄える状況であります。今後も安定した経営基盤に基づく収益向上を図り営業活動によるキャッシュ・フローの増加に努めてまいります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当事業年度の設備投資につきましては、生産設備の維持更新等全体で112百万円の設備投資を実施いたしました。
 なお、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

2 【主要な設備の状況】

平成29年3月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
		建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
生産設備							
本社工場 (高知県高知市)	生産・開発設備	57,366	25,875	123,468 (3,236.18)	5,206	211,917	25
本社西工場 (高知県高知市)	塗装設備及び倉庫	103,922	10,950	208,524 (3,277.14)	2,475	325,871	
明見工場 (高知県南国市)	生産設備	98,757	44,217	298,038 (6,050.35)	2,497	443,510	50
その他の設備							
本社 (高知県高知市)	全社管理設備	46,198	9,575	61,604 (1,614.68)	7,777	125,155	25
滝本ベース (高知県南国市)	完成車両保管倉庫	120,189		75,111 (3,032.80)	1,214	196,514	
技術センター (高知県南国市)	設計・生産管理設備	58,792	3,296	85,748 (1,389.75)	13,771	161,609	60
東京支店 (東京都中央区)	販売設備	289	8,864	()	1,181	10,336	14
東北・北海道支店 (仙台市太白区)	販売設備		2,760	()	310	3,071	4
名古屋支店 (名古屋市北区)	販売設備	433	3,603	()	377	4,414	6
大阪支店 (大阪府摂津市)	販売設備	20,440	4,532	358,000 (808.74)	1,330	384,302	7
福岡支店 (福岡市中央区)	販売設備	0	853	()	469	1,322	4
中四国支店 (広島県東広島市)	販売設備		2,404	()	348	2,752	4
札幌営業所 (札幌市厚別区)	販売設備		1,077	()	252	1,330	2
一宮資材置場 (高知県高知市)	資材設備	33		43,868 (1,956.00)		43,902	
データセンター (高知県南国市)	基幹システム				10,588	10,588	

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。
 2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
 3 帳簿価額の「その他」は、工具、器具及び備品47,803千円であります。
 4 建物の一部を賃借しております。年間の賃借料は84,078千円であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,576,000
計	17,576,000

【発行済株式】

種類	事業年度末 現在発行数(株) (平成29年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年6月21日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,564,000	5,564,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株でありま す。
計	5,564,000	5,564,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年4月1日(注)	1,284,000	5,564,000		313,700		356,021

(注) 平成25年3月31日の株主名簿に記載された株主に対し、1株につき1.3株の割合をもって分割いたしました。

(6) 【所有者別状況】

平成29年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		8	11	37	14	1	1,627	1,698	
所有株式数(単元)		3,869	370	7,325	672	4	43,383	55,623	1,700
所有株式数の割合(%)		6.96	0.66	13.17	1.21	0.01	77.99	100.00	

(注) 自己株式5,214株は、「個人その他」に52単元、「単元未満株式の状況」に14株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成29年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社扇港鋼業所	兵庫県神戸市東灘区住吉南町三丁目1-5	573	10.31
兼松エンジニアリング従業員持株会	高知県高知市布師田3981-7	466	8.38
山本 琴一	高知県高知市	463	8.32
山口 隆士	高知県高知市	318	5.72
山本 吾一	高知県高知市	262	4.72
三谷 恵美子	高知県高知市	212	3.82
柳川 裕司	高知県高知市	197	3.56
株式会社四国銀行	高知県高知市南はりまや町一丁目1-1	152	2.73
坂本 洋介	高知県高知市	133	2.41
三谷 浩溢	高知県高知市	106	1.91
三谷 公男	高知県高知市	106	1.91
計	-	2,993	53.80

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,557,100	55,571	
単元未満株式	普通株式 1,700		
発行済株式総数	5,564,000		
総株主の議決権		55,571	

【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 兼松エンジニアリング株式会社	高知県高知市布師田 3981-7	5,200		5,200	0.09
計		5,200		5,200	0.09

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

- (1) 【株主総会決議による取得の状況】
 該当事項はありません。
- (2) 【取締役会決議による取得の状況】
 該当事項はありません。
- (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】
 該当事項はありません。
- (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	5,214		5,214	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成29年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識しており、経営基盤の充実とともに自己資本利益率の向上に努め、安定的な配当(1株当たり12円の普通配当)の継続を行うとともに、業績の状況により配当性向35%を目標として配当を行うことを基本方針としております。

また、期末配当として年1回の利益剰余金の配当を行うことを基本方針としており、この利益剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。なお、当社は、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

当事業年度の業績は、株式上市以来最高の当期純利益を計上することとなりました。これらを踏まえ、普通配当の12円に、特別配当の26円を合わせ、期末配当金は1株当たり38円といたしました。

内部留保資金の用途につきましては、今後の事業展開への備えと財務体質強化など企業価値を高めるため、有効投資していくこととしております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成29年6月20日 定時株主総会決議	211,233	38.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
最高(円)	725 565	620	1,087	1,120	1,242
最低(円)	360 514	403	480	851	830

(注) 1 最高・最低株価は、平成25年7月16日より東京証券取引所市場第二部におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

2 印は、株式分割(平成25年4月1日、1株 1.3株)による権利落ち後の株価であります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成28年10月	11月	12月	平成29年1月	2月	3月
最高(円)	929	960	998	1,055	1,242	1,225
最低(円)	908	897	939	989	1,050	1,158

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性 8 名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)		佃 維 男	昭和24年6月8日生	昭和49年4月 ヤマサ産業株式会社(現：株式会 社ヤマサ)入社 昭和55年9月 当社入社 平成13年3月 東京支店長 平成17年6月 取締役営業第一本部長兼東京支店 長就任 平成21年6月 執行役員営業本部長就任 平成22年6月 取締役就任 平成23年6月 常務取締役就任 平成24年6月 代表取締役専務就任 平成25年6月 代表取締役社長就任(現)	(注) 3	69
取締役専務 (代表取締役)		山 本 琴 一	昭和33年7月1日生	平成2年7月 当社入社 平成2年7月 有限会社立花溶材商会出向 平成4年1月 当社製造部主任 平成10年10月 内部監査室係長 平成13年6月 常勤監査役就任 平成21年6月 取締役就任 平成25年6月 常務取締役就任 平成28年6月 代表取締役専務就任(現)	(注) 3	463
取締役		柳 井 仁 司	昭和30年8月19日生	昭和53年2月 当社入社 平成3年9月 大阪営業所長 平成19年4月 営業本部東日本支社長 平成22年6月 営業部門統括執行役員 平成23年4月 生産管理部・製造部統括執行役員 平成24年4月 生産部門統括執行役員 平成24年6月 取締役就任(現)	(注) 3	40
取締役		西 岡 啓 二 郎	昭和23年12月11日生	昭和53年11月 近畿第一監査法人入職 昭和59年4月 西岡公認会計士事務所長(現) 平成10年6月 当社監査役就任 平成28年6月 当社取締役就任(現)	(注) 3	40
取締役		清 金 慎 治	昭和28年3月24日生	昭和62年4月 大阪弁護士会弁護士登録 平成12年4月 アス力法律事務所設立 平成28年6月 当社取締役就任(現)	(注) 3	0
監査役 (常勤)		中 村 修 身	昭和29年9月28日生	昭和48年4月 株式会社四国銀行入社 平成17年8月 同行より当社へ出向、総務部次長 平成18年4月 当社入社、総務部長 平成24年3月 仮常勤監査役 平成24年6月 常勤監査役就任(現)	(注) 4	11
監査役		平 井 雄 一	昭和25年4月14日生	昭和44年4月 大阪国税局税務大学校入校 平成8年8月 平井税理士事務所長(現) 平成10年6月 当社監査役就任(現)	(注) 4	40
監査役		筒 井 康 賢	昭和22年8月2日生	昭和52年4月 通商産業省工業技術院機械技術研 究所入所 平成19年4月 高知工科大学副学長 平成27年4月 高知工科大学名誉教授(現) 平成27年11月 株式会社栄光工業顧問就任(現) 平成28年6月 当社監査役就任(現)	(注) 4	
計						667

- (注) 1 取締役西岡啓二郎及び清金慎治は、社外取締役であります。
- 2 監査役平井雄一及び筒井康賢は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 当社では取締役会の意思決定に従い、各部門の業務を執行・管理するため、執行役員制度を導入しております。執行役員は以下の3名で構成されております。
北村和則(営業部門責任者)・田中栄一(生産部門責任者)・中野守康(管理部門責任者)
- 6 役員間に、二親等内の親族関係はありません。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

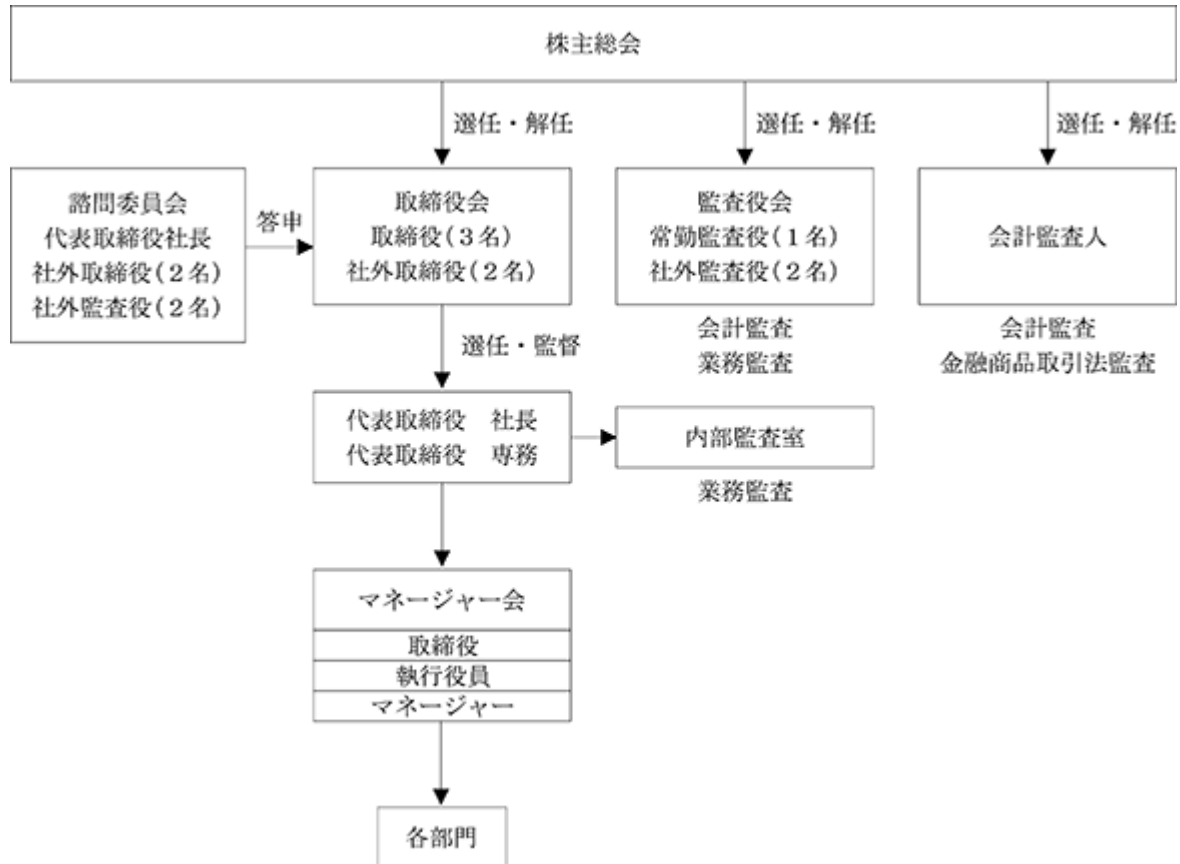
企業統治の体制等

1. 企業統治の体制の概要

当社は監査役会設置会社であり、監査役3名(内2名は社外監査役)で構成し、定められた監査方針に基づき、監査の充実を図っております。

取締役会は、迅速で的確な判断ができるよう5名の取締役(内2名は社外取締役)で構成し、経営に関する重要事項を決定し、各部門の業務執行を監督しております。代表取締役は複数代表者制(社長・専務)を採用し、相互牽制を図っております。なお、当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

また、取締役会の意思決定に従い、各部門の業務を執行・管理するため、執行役員制度を導入しております。なお、執行役員は取締役会の決議にて選任されております。



- (a) 取締役会は、原則月1回開催され、全監査役も出席し業務執行に対する意見表明を行っております。また、監査役会は3ヶ月に1回と監査報告形成の会を年1回開催し、必要に応じて代表取締役社長に出席を求め、経営の基本問題や重要事項について意見交換を行っております。なお、事務局は内部監査室長が担当しております。
- (b) 代表取締役社長、社外取締役(2名)及び社外監査役(2名)で構成する諮問委員会を設置しております。諮問委員会は取締役会の諮問に応じ、以下の事項に関し取締役会に意見を述べる役割・責務を担っております。
 - ・取締役の報酬の妥当性
 - ・役付取締役の選任及び取締役・監査役の指名を行うに当たっての方針と手続きの妥当性検証
- (c) 経営環境の変化により早く対応するため、マネージャー会を週1回開催しております。執行役員を含め、各業務部門の責任者に取締役が加わり、業務上の問題点・重要事項について報告・協議しております。特に重要な事項は取締役会において決定することとしております。なお、マネージャー会には常勤監査役も出席し意見表明を行っております。

(d) その他に業務の執行に係わる重要な会議として、経営戦略会議、予算委員会、人事委員会、品質管理委員会、開発委員会を設置・運営しておりますが、取締役はもちろん、監査内容充実のため常勤監査役及び内部監査室長も出席しております。

2. 当該体制を採用する理由

コーポレート・ガバナンスの本質は、企業価値を高めるため、企業活動に係わる人々が一致団結して同じ方向を向いて活動するように、その行動をコントロールすることであると言えます。

コーポレート・ガバナンスを有効に機能させることが求められる中、当社は経営効率の向上、株主重視の方針のもと、企業経営の透明性、公正性、スピードを追求していきたいと考えております。

そのためには、取締役会における経営に関する業務執行の意思決定・監視機能の強化、監査役会による取締役の職務監査の強化が必要であります。

3. 内部統制システムの整備の状況

当社では、役員・従業員が社会的良識、規範に基づき行動するよう「経営理念」・「行動指針」を定めております。

また、取締役会、マネージャー会、重要会議、研修会等を通じ、役員・従業員の遵法に関する意識の浸透を図っております。

4. リスク管理体制の整備の状況

当社では、各部門での業務上のリスク管理はそれぞれの管理部署が対応しております。また、全社的なリスクは、取締役会、マネージャー会、重要会議等で把握・管理しております。なお、必要に応じて顧問弁護士等の指導を受けております。

内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携、監査と内部統制部門との関係

監査役会は、関係規定や監査方針、監査計画書等を定め、それらに従い、各監査役が業務監査及び財産の調査に当たっております。

各監査役は、会計監査人である新日本有限責任監査法人の監査の方法や、その結果の検討に当たって、数度にわたる意見・情報交換等を実施、専門的知見からの質疑を展開する等、相互連携を図っております。社外監査役のうち、1名は税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

また、社長直轄の独立部署として内部監査室を設置しており、1名で構成されております。内部監査室と監査役は、部門監査の合同実施や内部統制状況の把握等緊密な関係を維持しております。

社外取締役・社外監査役の設置状況

当社は、以下の役割・責務を担う目的において、2名の独立社外取締役を選任しております。

- (a) 経営の方針や経営改善について、自らの知見に基づき、会社の持続的な成長を促し中長期的な企業価値の向上を図る、との観点からの助言を行うこと。
- (b) 経営陣幹部の選解任その他の取締役会の重要な意思決定を通じ、経営の監督を行うこと。
- (c) 会社と経営陣・支配株主等との間の利益相反を監督すること。
- (d) 経営陣・支配株主から独立した立場で、少数株主をはじめとするステークホルダーの意見を取締役に適切に反映させること。

西岡啓二郎は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有していること、及びこれまでの当社における社外監査役としての実績を踏まえ、社外取締役として選任しております。当社製品の塗料等の仕入先である株式会社角コーポレーションの社外監査役に就任しております。当社と西岡啓二郎との間には、上記以外の人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係はありません。

清金慎治は、弁護士としての経験・識見が豊富であり、当社の論理に捉われず、法令を含む企業社会全体を踏まえた客観的視点で、独立性をもって経営の監視を遂行することにより、取締役会の透明性の向上及び監督機能の強化に繋がることから、社外取締役として選任しております。当社と清金慎治との間には、人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係はありません。

なお、独立社外取締役の選任にあたって、候補者は会社法に定める要件、及び株式会社東京証券取引所が定める独立性基準を充足していることを確認しております。

社外監査役は、独立・客観・中立的観点から、それぞれの高い見識と豊富な経験を生かして、経営監督機能としての役割・責務を担っております。

平井雄一は、税理士の資格を有しており、税務に関する相当程度の知見を有していること、及びこれまでの当社における社外監査役としての実績を踏まえ、社外監査役として選任しております。当社と平井雄一の間には、人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係はありません。

筒井康賢は、通商産業省、高知工科大学での豊富な経験、幅広い知見を有していることから、社外監査役として選任しております。当社と筒井康賢の間には、人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係はありません。

当社は、社外取締役・社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針は定めておりませんが、会社法の定める要件及び株式会社東京証券取引所が定める独立性基準に従うことを前提としており、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを重視し、幅広い見識と一定の公的資格を有する人物を選任します。

社外取締役及び社外監査役の全員を株式会社東京証券取引所が定める独立役員として指定しております。

役員の報酬等

1. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)		対象となる 役員の員数(名)
		基本報酬	役員賞与引当金 繰入額	
取締役(社外取締役を除く)	151,840	93,840	58,000	4
監査役(社外監査役を除く)	12,760	11,760	1,000	1
社外役員	13,260	12,060	1,200	4

2. 役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

3. 報酬等の額又はその算定方法に係る決定方針の内容及び決定方法等

取締役及び監査役の報酬は「役員規程」に基づき、世間水準及び経営内容、従業員給与とのバランス等を考慮して決定しております。

報酬の額は、株主総会が決定する報酬総額の限度内において、取締役の報酬は取締役会で、監査役の報酬は監査役の協議で決定しております。

株式保有の状況

1. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 3銘柄
 貸借対照表計上額の合計額 27百万円

2. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
 (前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)四国銀行	49,000	10,633	資本政策による安定株主の獲得
トモニホールディングス(株)	17,000	5,661	資本政策による安定株主の獲得
(株)高知銀行	25,000	2,900	資本政策による安定株主の獲得

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)四国銀行	49,000	14,259	資本政策による安定株主の獲得
トモニホールディングス(株)	17,000	10,030	資本政策による安定株主の獲得
(株)高知銀行	25,000	3,275	資本政策による安定株主の獲得

3. 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

(a) 業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
業務執行社員	小竹 伸幸	新日本有限責任監査法人
業務執行社員	後藤 英之	新日本有限責任監査法人

(注) 継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

(b) 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 4名
 その他 4名

取締役会で決議できる株主総会決議事項

当社は、株主への機動的な利益還元も可能とするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当社は、資本政策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって自己株式を取得することができる旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

責任限定契約の内容

当社は、会社法第427条第1項に基づき、社外取締役及び社外監査役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任について、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、会社法第425条第1項に規定する最低責任限度額を限度とする契約を締結しております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
15,500		15,500	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の額の決定方針は定めておりませんが、監査日数、当社の規模・業績等を勘案し、適切に決定されております。

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表について

当社には子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,670,561	2,194,250
受取手形	984,174	989,377
電子記録債権	168,844	256,846
売掛金	1,302,881	1,494,548
商品及び製品	210,451	200,688
仕掛品	869,445	791,463
原材料及び貯蔵品	243,290	242,738
前払費用	17,818	17,193
繰延税金資産	139,497	135,169
その他	3,097	4,368
貸倒引当金	4,696	1,370
流動資産合計	5,605,368	6,325,274
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,423,427	1,445,057
減価償却累計額	932,705	966,714
建物(純額)	490,721	478,343
構築物	74,852	77,630
減価償却累計額	43,971	49,549
構築物(純額)	30,881	28,080
機械及び装置	283,548	303,879
減価償却累計額	216,704	235,628
機械及び装置(純額)	66,844	68,250
車両運搬具	187,501	189,340
減価償却累計額	134,752	139,580
車両運搬具(純額)	52,748	49,759
工具、器具及び備品	180,572	173,905
減価償却累計額	137,061	126,102
工具、器具及び備品(純額)	43,510	47,803
土地	1,254,363	1,254,363
有形固定資産合計	1,939,070	1,926,601
無形固定資産		
ソフトウェア	67,972	48,876
電話加入権	3,724	3,724
無形固定資産合計	71,696	52,600

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	19,194	27,564
出資金	76,520	76,520
長期前払費用	1,572	1,047
繰延税金資産	73,730	75,743
その他	22,518	21,445
貸倒引当金	4,921	3,721
投資その他の資産合計	188,614	198,599
固定資産合計	2,199,381	2,177,801
資産合計	7,804,749	8,503,076

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,045,666	1,182,802
電子記録債務	893,719	873,896
買掛金	748,761	855,936
未払金	229,309	62,954
未払費用	96,791	111,331
未払法人税等	160,054	146,519
未払消費税等	56,343	72,635
預り金	46,033	48,239
前受金	1,098	92,907
賞与引当金	210,000	265,000
役員賞与引当金	70,760	60,200
製品保証引当金	38,000	62,000
その他	4,624	7,337
流動負債合計	3,601,163	3,841,760
固定負債		
長期未払金	9,470	9,470
退職給付引当金	167,038	183,298
固定負債合計	176,508	192,768
負債合計	3,777,672	4,034,529
純資産の部		
株主資本		
資本金	313,700	313,700
資本剰余金		
資本準備金	356,021	356,021
資本剰余金合計	356,021	356,021
利益剰余金		
利益準備金	49,625	49,625
その他利益剰余金		
別途積立金	1,400,000	1,400,000
繰越利益剰余金	1,910,574	2,343,789
利益剰余金合計	3,360,199	3,793,414
自己株式	1,828	1,828
株主資本合計	4,028,091	4,461,306
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,014	7,240
評価・換算差額等合計	1,014	7,240
純資産合計	4,027,077	4,468,547
負債純資産合計	7,804,749	8,503,076

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
売上高	9,438,788	10,331,385
売上原価		
製品期首たな卸高	186,970	210,451
当期製品製造原価	2 7,098,247	2 7,741,099
合計	7,285,217	7,951,551
製品期末たな卸高	210,451	200,688
売上原価合計	1 7,074,765	1 7,750,863
売上総利益	2,364,023	2,580,522
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	356,654	407,292
賞与	192,992	212,713
賞与引当金繰入額	99,431	132,019
役員賞与引当金繰入額	70,760	60,200
退職給付費用	11,161	11,298
貸倒引当金繰入額	995	1,055
製品保証引当金繰入額	5,000	24,000
研究開発費	2 80,059	2 81,188
減価償却費	59,543	74,720
その他	682,609	733,300
販売費及び一般管理費合計	1,557,216	1,735,678
営業利益	806,806	844,843
営業外収益		
受取利息	236	212
受取賃貸料	17,560	17,724
為替差益		84
その他	4,139	4,060
営業外収益合計	21,935	22,082
営業外費用		
為替差損	184	
長期前払費用償却	700	162
その他	14	26
営業外費用合計	898	189
経常利益	827,842	866,736
特別利益		
受取保険金		3 31,210
固定資産売却益		4 18
特別利益合計		31,229
特別損失		
災害による損失		3 16,414
固定資産売却損		5 24
固定資産除却損	6 574	6 74
特別損失合計	574	16,512
税引前当期純利益	827,268	881,453
法人税、住民税及び事業税	277,043	262,596
法人税等調整額	10,245	2,201
法人税等合計	287,288	264,798
当期純利益	539,979	616,654

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)		当事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	5,150,386	71.4	5,522,953	72.0
労務費		868,186	12.0	887,895	11.6
経費		1,193,092	16.6	1,257,567	16.4
当期総製造費用		7,211,665	100.0	7,668,417	100.0
仕掛品期首たな卸高		756,659		869,445	
合計		7,968,324		8,537,862	
仕掛品期末たな卸高		869,445		791,463	
他勘定振替高	2	631		5,299	
当期製品製造原価		7,098,247		7,741,099	

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
外注加工費	845,601	918,251
減価償却費	74,231	69,931
研究開発費	911	1,502

2 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
研究開発費	631	418
機械及び装置		1,404
車両運搬具		3,476
計	631	5,299

(原価計算の方法)

当社は、個別原価計算による実際原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	313,700	356,021	356,021	49,625	1,400,000	1,520,682	2,970,307
当期変動額							
剰余金の配当						150,088	150,088
当期純利益						539,979	539,979
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計						389,891	389,891
当期末残高	313,700	356,021	356,021	49,625	1,400,000	1,910,574	3,360,199

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,785	3,638,243	4,978	4,978	3,643,221
当期変動額					
剰余金の配当		150,088			150,088
当期純利益		539,979			539,979
自己株式の取得	43	43			43
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			5,992	5,992	5,992
当期変動額合計	43	389,847	5,992	5,992	383,855
当期末残高	1,828	4,028,091	1,014	1,014	4,027,077

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	313,700	356,021	356,021	49,625	1,400,000	1,910,574	3,360,199
当期変動額							
剰余金の配当						183,439	183,439
当期純利益						616,654	616,654
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計						433,214	433,214
当期末残高	313,700	356,021	356,021	49,625	1,400,000	2,343,789	3,793,414

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,828	4,028,091	1,014	1,014	4,027,077
当期変動額					
剰余金の配当		183,439			183,439
当期純利益		616,654			616,654
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			8,255	8,255	8,255
当期変動額合計		433,214	8,255	8,255	441,470
当期末残高	1,828	4,461,306	7,240	7,240	4,468,547

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	827,268	881,453
減価償却費	133,774	144,652
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,011	4,525
賞与引当金の増減額(は減少)	10,000	55,000
役員賞与引当金の増減額(は減少)	800	10,560
製品保証引当金の増減額(は減少)	5,000	24,000
退職給付引当金の増減額(は減少)	17,022	16,259
受取利息及び受取配当金	1,009	986
売上債権の増減額(は増加)	409,665	283,671
たな卸資産の増減額(は増加)	105,547	88,297
仕入債務の増減額(は減少)	104,533	251,910
長期末払金の増減額(は減少)	92,656	
その他	11,872	28,655
小計	455,036	1,190,485
利息及び配当金の受取額	1,009	986
保険金の受取額		31,210
災害損失の支払額		16,414
法人税等の支払額	269,905	286,989
営業活動によるキャッシュ・フロー	186,140	919,278
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(は増加)	76,045	200,000
有形固定資産の取得による支出	138,358	205,067
無形固定資産の取得による支出	32,503	9,432
その他	4,913	2,089
投資活動によるキャッシュ・フロー	99,729	412,410
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	152,180	180,857
その他	43	
財務活動によるキャッシュ・フロー	152,223	180,857
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	65,813	326,010
現金及び現金同等物の期首残高	983,113	917,300
現金及び現金同等物の期末残高	917,300	1,243,310

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

事業年度末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(1) 製品、仕掛品

個別法

(2) 原材料

総平均法

(3) 貯蔵品

最終仕入原価法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法(ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法)によっております。

主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	7～38年
機械及び装置	2～17年

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益への影響は軽微であります。

(2) 無形固定資産

ソフトウェア(自社利用分)

社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) 長期前払費用

定額法によっております。

4 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、事業年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理してあります。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき、計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき、計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

なお、退職給付債務の見込額は、簡便法(退職給付に係る期末自己都合要支給額から、中小企業退職金共済制度より支給される金額を控除した額を退職給付債務とする方法)により計算しております。

(5) 製品保証引当金

製品の売上に対する保証費用の発生に備えるため、過去の実績を基礎に、将来の保証見込額を加味してサービス費用を見積り、計上しております。

6 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない、取得日から3カ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下による簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれており
 ます。

前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1,703千円	3,350千円

- 2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
一般管理費	80,059千円	81,188千円
当期製造費用	911千円	1,502千円
計	80,971千円	82,691千円

- 3 受取保険金及び災害による損失

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

平成28年10月5日に発生した竜巻により本社西工場(高知県高知市)が被災し、復旧費用等16,414千円を災害による損失として特別損失に計上し、それに伴う受取保険金31,210千円を特別利益に計上しております。

- 4 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
車両運搬具		18千円

- 5 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
車両運搬具		24千円

- 6 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物	0千円	29千円
構築物	298千円	
機械及び装置	0千円	0千円
車両運搬具	264千円	
工具、器具及び備品	11千円	44千円
計	574千円	74千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	5,564,000			5,564,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	5,168	46		5,214

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加 46株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月19日 定時株主総会	普通株式	150,088	27.00	平成27年3月31日	平成27年6月22日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	183,439	33.00	平成28年3月31日	平成28年6月22日

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	5,564,000			5,564,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	5,214			5,214

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月21日 定時株主総会	普通株式	183,439	33.00	平成28年3月31日	平成28年6月22日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月20日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	211,233	38.00	平成29年3月31日	平成29年6月21日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
現金及び預金勘定	1,670,561千円	2,194,250千円
預入期間が 3ヶ月を超える定期預金	747,852千円	947,852千円
別段預金	5,409千円	3,087千円
現金及び現金同等物	917,300千円	1,243,310千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針であります。当社は、デリバティブ取引は利用しておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形、電子記録債権及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社の販売管理規程に従い、営業部及び経理部が取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が役員に報告されております。

営業債務である支払手形、電子記録債務及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。

また、営業債務は、流動性リスクに晒されておりますが、当社では、経理部が月次に資金繰計画を策定する方法により管理し、予算委員会にて報告しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変更要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度(平成28年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,670,561	1,670,561	
(2) 受取手形	984,174	984,174	
(3) 電子記録債権	168,844	168,844	
(4) 売掛金	1,302,881	1,302,881	
(5) 投資有価証券	19,194	19,194	
資産計	4,145,656	4,145,656	
(1) 支払手形	1,045,666	1,045,666	
(2) 電子記録債務	893,719	893,719	
(3) 買掛金	748,761	748,761	
負債計	2,688,147	2,688,147	

当事業年度(平成29年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,194,250	2,194,250	
(2) 受取手形	989,377	989,377	
(3) 電子記録債権	256,846	256,846	
(4) 売掛金	1,494,548	1,494,548	
(5) 投資有価証券	27,564	27,564	
資産計	4,962,587	4,962,587	
(1) 支払手形	1,182,802	1,182,802	
(2) 電子記録債務	873,896	873,896	
(3) 買掛金	855,936	855,936	
負債計	2,912,635	2,912,635	

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 電子記録債権及び(4) 売掛金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照下さい。

負債

(1) 支払手形、(2) 電子記録債務及び(3) 買掛金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	1,668,751			
受取手形	984,174			
電子記録債権	168,844			
売掛金	1,302,881			
合計	4,124,652			

当事業年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	2,192,671			
受取手形	989,377			
電子記録債権	256,846			
売掛金	1,494,548			
合計	4,933,444			

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前事業年度(平成28年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	8,561	7,424	1,137
(2) 債券			
(3) その他			
小計	8,561	7,424	1,137
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式	10,633	12,495	1,862
(2) 債券			
(3) その他			
小計	10,633	12,495	1,862
合計	19,194	19,919	725

当事業年度(平成29年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	27,564	19,919	7,645
(2) 債券			
(3) その他			
小計	27,564	19,919	7,645
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式			
(2) 債券			
(3) その他			
小計			
合計	27,564	19,919	7,645

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度を採用しております。

退職一時金制度(非積立型であり、その一部について「独立行政法人 勤労者退職金共済機構中小企業退職金共済事業本部」の退職金共済制度に加入しております。)では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

また、当社は、厚生年金基金制度では、高知県機械金属工業厚生年金基金に加入しておりますが、当該厚生年金基金制度は複数事業主による総合設立型であり、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。なお、同基金は、平成29年1月26日に厚生労働大臣あてに代行返上(過去分)及び企業年金基金制度への移行の認可申請を行いました。平成29年4月1日付で認可を受け、高知県機械金属工業企業年金基金が設立されました。

2 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付引当金の期首残高	150,015千円	167,038千円
退職給付費用	20,701千円	22,188千円
退職給付の支払額	3,678千円	5,929千円
退職給付引当金の期末残高	167,038千円	183,298千円

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	167,038千円	183,298千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	167,038千円	183,298千円
退職給付引当金	167,038千円	183,298千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	167,038千円	183,298千円

(3) 退職給付費用

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
簡便法で計算した退職給付費用	20,701千円	22,188千円
複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額	34,696千円	14,961千円
中小企業退職金共済制度への拠出額	21,078千円	21,385千円
退職給付費用	76,476千円	58,535千円

(注) 上記のうち、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は法定福利費として計上しており、中小企業退職金共済制度への拠出額は福利厚生費として計上しております。

3 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、前事業年度34,696千円、当事業年度14,961千円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況(平成28年3月31日現在)

	前事業年度 平成27年3月31日現在	当事業年度 平成28年3月31日現在
年金資産の額	9,945,515千円	10,001,468千円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	9,857,532千円	9,754,442千円
差引額	87,983千円	247,026千円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社の割合

前事業年度 8.9%(自平成26年4月1日至平成27年3月31日)

当事業年度 8.2%(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)

(3) 補足説明

(平成27年3月31日現在)

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高418,998千円及び剰余金506,981千円であり
 ます。

また、平成26年度は、時価ベース利回りで15.87%の運用利回りとなりました。その結果、当事業年度の剰余金は
 402,944千円発生し、別途積立金104,036千円を加えて、翌事業年度の積立額または翌事業年度への繰越額は506,981
 千円となりました。

なお、上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致しておりません。

(平成28年3月31日現在)

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高518,821千円及び剰余金765,847千円であり
 ます。

また、平成27年度は、時価ベース利回りで0.69%の運用利回りとなりました。その結果、当事業年度の剰余金は
 258,866千円発生し、別途積立金506,981千円を加えて、翌事業年度の積立額または翌事業年度への繰越額は765,847
 千円となりました。

なお、上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産		
製品保証引当金	11,666千円	19,034千円
賞与引当金	64,470千円	81,355千円
退職給付引当金	50,954千円	55,910千円
長期未払金	2,888千円	2,888千円
貸倒引当金	2,940千円	1,558千円
棚卸資産評価損	12,645千円	13,673千円
減価償却超過額	21,560千円	18,529千円
その他	54,243千円	24,588千円
繰延税金資産小計	221,368千円	217,537千円
評価性引当額	7,849千円	6,221千円
繰延税金資産合計	213,518千円	211,316千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	289千円	404千円
繰延税金負債合計	289千円	404千円
繰延税金資産純額	213,228千円	210,912千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率 (調整)	32.8%	30.7%
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.3%	2.6%
評価性引当額	0.0%	0.2%
住民税均等割等	0.4%	0.4%
税額控除	3.6%	3.4%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.2%	
その他	0.6%	0.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.7%	30.0%

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当社は、環境整備機器関連事業並びにこれらの付帯業務の単一事業であります。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社は、環境整備機器関連事業並びにこれらの付帯業務の単一事業であります。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

	強力吸引作業車 (千円)	高圧洗浄車 (千円)	部品売上 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)
外部顧客への売上高	6,579,768	1,158,676	810,204	890,139	9,438,788

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

	強力吸引作業車 (千円)	高圧洗浄車 (千円)	部品売上 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)
外部顧客への売上高	6,795,250	1,715,431	829,481	991,222	10,331,385

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
役員の近親者 が議決権の過 半数を所有し ている会社等	(有)立花溶材 商会	高知県 高知市	5,000	溶接資材の 販売	なし	当社への 部品等の 供給	部品の 仕入等	70,153	支払手形	24,149
									買掛金	4,328
									未払金	655

(注) 1 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 部品等の購入については、市場価格に基づいて価格交渉の上、一般的取引条件と同様に決定しております。

3 取締役山本琴一の近親者が議決権の72%を保有しております。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
役員の近親者 が議決権の過 半数を所有し ている会社等	(有)立花溶材 商会	高知県 高知市	5,000	溶接資材の 販売	なし	当社への 部品等の 供給	部品の 仕入等	63,773	支払手形	16,485
									買掛金	5,138
									未払金	683

(注) 1 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 部品等の購入については、市場価格に基づいて価格交渉の上、一般的取引条件と同様に決定しております。

3 取締役山本琴一の近親者が議決権の72%を保有しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり純資産額	724.45円	803.87円
1株当たり当期純利益金額	97.14円	110.93円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	539,979	616,654
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	539,979	616,654
普通株式の期中平均株式数(株)	5,558,824	5,558,786

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	4,027,077	4,468,547
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	4,027,077	4,468,547
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	5,558,786	5,558,786

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,423,427	22,352	722	1,445,057	966,714	34,701	478,343
構築物	74,852	2,777		77,630	49,549	5,578	28,080
機械及び装置	283,548	22,002	1,672	303,879	235,628	20,596	68,250
車両運搬具	187,501	28,985	27,146	189,340	139,580	31,690	49,759
工具、器具及び備品	180,572	28,448	35,114	173,905	126,102	24,110	47,803
土地	1,254,363			1,254,363			1,254,363
建設仮勘定		28,499	28,499				
有形固定資産計	3,404,265	133,065	93,154	3,444,176	1,517,575	116,676	1,926,601
無形固定資産							
ソフトウェア	137,821	8,117	3,121	142,817	93,940	27,213	48,876
電話加入権	3,724			3,724			3,724
無形固定資産計	141,545	8,117	3,121	146,541	93,940	27,213	52,600
長期前払費用	5,165	400	904	4,661	3,613	761	1,047

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	屋根改修(本社西工場)	9,920千円
車両運搬具	デモ車1台及び社有車7台	27,898千円

2 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

工具、器具及び備品	サーバー6台除却	24,703千円
-----------	----------	----------

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	9,617	1,370	3,470	2,426	5,091
賞与引当金	210,000	265,000	210,000		265,000
役員賞与引当金	70,760	60,200	70,760		60,200
製品保証引当金	38,000	62,000		38,000	62,000

- (注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、入金回収による取崩額及び一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。
 2 製品保証引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による戻入額であります。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	1,578
預金	
当座預金	727,440
普通預金	514,291
定期預金	947,852
その他預金	3,087
小計	2,192,671
合計	2,194,250

受取手形

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
中京スーパー(株)	100,996
UDトラック(株)	68,890
三菱ふそうトラック・バス(株)	65,016
若水産業(株)	57,672
東京日野自動車(株)	51,370
その他	645,432
合計	989,377

(b) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成29年4月満期	253,269
平成29年5月満期	249,556
平成29年6月満期	237,609
平成29年7月満期	195,293
平成29年8月満期	31,960
平成29年9月以降満期	21,686
合計	989,377

電子記録債権

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
いすゞ自動車販売(株)	123,832
矢野口自工(株)	69,474
横浜日野自動車(株)	28,944
岩手日野自動車(株)	24,084
濱田重工(株)	4,164
その他	6,347
合計	256,846

(b) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成29年4月満期	55,841
平成29年5月満期	95,993
平成29年6月満期	31,640
平成29年7月満期	38,945
平成29年8月満期	34,426
合計	256,846

売掛金

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
矢野口自工(株)	76,460
中京スーパー(株)	61,554
日鉄住金物産(株)	54,224
四国溶材(株)	53,672
三菱UFJリース(株)	53,460
その他	1,195,176
合計	1,494,548

(b) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円) (A)	当期発生高(千円) (B)	当期回収高(千円) (C)	当期末残高(千円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
1,302,881	11,154,217	10,962,550	1,494,548	88.0	45.8

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

商品及び製品

品目	金額(千円)
製品	
シャーシ	200,688
合計	200,688

仕掛品

品目	金額(千円)
強力吸引作業車	576,003
高压洗浄車	154,670
粉粒体吸引・圧送車	22,045
その他	38,745
合計	791,463

原材料及び貯蔵品

品目	金額(千円)
原材料	
ルーツブロワ	21,464
油圧シリンダー	14,328
プランジャーポンプ	15,891
等速ボールジョイント	5,150
ボールバルブ	6,885
鋼板	2,027
その他	173,250
小計	238,998
貯蔵品	3,739
合計	242,738

支払手形

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
北村商事(株)	94,266
三菱ふそうトラック・バス(株)	70,128
(株)大進商工	57,040
千葉日野自動車(株)	51,624
UDトラックス(株)	49,646
その他	860,096
合計	1,182,802

(b) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成29年4月満期	288,439
平成29年5月満期	237,195
平成29年6月満期	314,927
平成29年7月満期	203,838
平成29年8月満期	138,401
合計	1,182,802

電子記録債務

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
日野自動車(株)	151,302
いすゞ自動車首都圏(株)	70,995
ティームックス(株)	56,327
三和機工(株)	42,379
東京日野自動車(株)	35,702
その他	517,189
合計	873,896

(b) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成29年4月満期	148,026
平成29年5月満期	268,538
平成29年6月満期	195,307
平成29年7月満期	142,790
平成29年8月満期	119,233
合計	873,896

買掛金

相手先	金額(千円)
日野自動車(株)	192,472
いすゞ自動車販売(株)	38,610
いすゞ自動車首都圏(株)	31,807
(有)山幸鉄工	29,084
北村商事(株)	25,510
その他	538,451
合計	855,936

(3) 【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高 (千円)	2,444,094	4,879,404	7,482,494	10,331,385
税引前四半期(当期)純利益金額 (千円)	237,440	459,772	696,023	881,453
四半期(当期)純利益金額 (千円)	163,766	314,804	475,962	616,654
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	29.46	56.63	85.62	110.93

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	29.46	27.17	28.99	25.31

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 (特別口座)
取次所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 なお、当社の公告掲載URLは次のとおりです。 http://www.kanematsu-eng.jp/
株主に対する特典	なし

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書	事業年度	自	平成27年4月1日	平成28年6月22日
	(第45期)	至	平成28年3月31日	四国財務局長に提出
(2) 内部統制報告書	事業年度	自	平成27年4月1日	平成28年6月22日
	(第45期)	至	平成28年3月31日	四国財務局長に提出
(3) 四半期報告書及び確認書	事業年度	自	平成28年4月1日	平成28年8月8日
	(第46期第1四半期)	至	平成28年6月30日	四国財務局長に提出
	事業年度	自	平成28年7月1日	平成28年11月11日
	(第46期第2四半期)	至	平成28年9月30日	四国財務局長に提出
	事業年度	自	平成28年10月1日	平成29年2月10日
	(第46期第3四半期)	至	平成28年12月31日	四国財務局長に提出
(4) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書			平成28年6月30日 四国財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年 6 月20日

兼松エンジニアリング株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小 竹	伸 幸
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	後 藤	英 之

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている兼松エンジニアリング株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第46期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、兼松エンジニアリング株式会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、兼松エンジニアリング株式会社の平成29年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、兼松エンジニアリング株式会社が平成29年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 X B R L データは監査の対象には含まれておりません。